

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月30日
- 事業名 : 沖縄県におけるソーシャルビジネスインキュベーション推進事業
- 資金分配団体 : 九州地域ソーシャルビジネス・コンソーシアム（公益財団法人九州経済調査協会、一般社団法人ユヌス・ジャパン）
- 実行団体 : 株式会社よしもとラフ&ピース

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
普及啓発により、ソーシャルビジネスの考え方に触れる人々が増える	普及啓発を行うイベント等への来場人数	75,000 名	2023 年度末	延べ 18,000 人	2
ソーシャルビジネスに関心が高い層とつながり、沖縄県内の社会課題を掘り起こすチャンネルが整っている	オフライン、オンラインによるワークショップ等の参加人数	500 名	2023 年度末	延べ 2,005 人 (2022 年 7 月末時点)	1
ソーシャルビジネスの実践に関して、支援対象となる案件が集まり始めている	ソーシャルビジネスに関する相談・問い合わせ件数	300 件	2023 年度末	202 件 (2022 年 7 月末時点)	2
支援を通じて、新規のソーシャルビジネスが生まれ始めている	新規ビジネス立ち上げ案件数	30 件	2023 年度末	2 件 (2022 年 7 月末時点)	2
支援対象案件をテーマにした BS 事業連動番組が放送され、社会課題の解決手法が発信されている	番組で扱う案件数	20 件	2023 年度末	10 件	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
ワークショップやイベントを開催する際、沖縄県の感染予防対策ガイドラインに基づき検温・消毒などの感染予防対策を徹底した。

③ 広報（※任意）

1. メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

▼外部メディア：139回（新聞、雑誌、ネットメディア等）

（掲載例：スポニチ）吉本興業 沖縄で社会問題解決支援、新事業「島ぜんぶでうむさんラブ」
<https://www.sponichi.co.jp/entertainment/news/2021/10/22/kiji/20211021s00041000692000c.html>

（掲載例：共同通信）吉本が沖縄でビジネス支援 社会課題の解決目指す
<https://kumanichi.com/articles/440104>

・オウンド：YouTube 配信 / Website / facebook / Instagram / Twitter

2. 広報制作物等

[種類] 島ラブ祭当日プログラム冊子

[発行時期] 2022年4月

[リンク先] <https://drive.google.com/drive/folders/1DRrZu3vcuNM7b9W69XzV3eU0iuaef2ea?usp=sharing>

[発行部数] 500部

[種類] 島ラブキャラバンチラシ

[発行時期] 2022年7月

[リンク先] https://drive.google.com/drive/folders/1fxaL3w0MTUVmrkc-GyyQhSbUnGr_JE7a?usp=sharing

[発行部数] 100部

3. 報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価報告作成／文献調査	松尾駿介	株式会社よしもとラフ&ピース
内部	評価に係る総合調整	藤原邦洋	株式会社よしもとラフ&ピース
外部	評価指標に関する実績集計/評価報告作成	山川伸夫	株式会社うむさんラボ 取締役
外部	評価指標に関する実績集計/評価報告作成	辻太一	株式会社うむさんラボ 事業統括マネージャー
外部	評価全般に対する有識者としてのレビュー	西原 文乃	立教大学経営学部国際経営学科・准教授

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
沖縄県民	沖縄県内において、社会課題解決の手段としてソーシャルビジネスが認知され始めている	認知され始めている状態	2023 年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルビジネスの普及啓発を行うイベント等への来場人数 →延べ 18,000 人 ・ソーシャルビジネスに関するオフライン、オンラインによるワークショップ等の参加人数 →延べ 2,005 人(2022 年 7 月末時点) ・ソーシャルビジネスの考え方を学ぶ 1 日体験ワークショップ（島ラブキャラバン）の参加状況 <ul style="list-style-type: none"> ①南部（那覇）：8/21(日)開催、約 20 名参加 ②離島（石垣島）：9/17(土)開催、約 20 名参加

				<p>③北部（名護）：10/22(土)開催、約 20 名参加</p> <p>④中部（浜比嘉島）：11/5(土)開催、約 30 名参加 (2022 年は計 4 回開催)</p>
沖縄県内におけるソーシャルビジネスの支援団体	沖縄県内でソーシャルビジネスに対する支援体制が整い始めている	県内各地で支援を受ける仕組みができてきつつある	2023 年度末	<p>・沖縄県内におけるソーシャルビジネスの支援団体である株式会社うむさんラボへのソーシャルビジネスに関する相談・問い合わせ件数 →202 件(2022 年 7 月末時点)</p> <p>相談者に対しては、まずは島ラブキャラバンへの参加を促している。その後、島ラブキャラバンへの参加から、島ラブアカデミー応募へとつなげていく流れをつくることで、段階的にソーシャルビジネスにチャレンジしやすい仕組みを構築していく。</p>
沖縄県内における社会起業家	支援を通じて、新たなソーシャルビジネスが継続して生まれ始めている	ソーシャルビジネスが継続して生まれ始めている	2023 年度末	<p>・沖縄県内における新規ソーシャルビジネス立ち上げ案件数 →2 件(2022 年 7 月末時点)</p> <p>①株式会社リテックフロー 海ブドウなど海藻の高効率陸上養殖システムの開発/販売</p> <p>②OrgaNect 合同会社 農家の収益を高めることを目的とした家庭用有機栽培キットと体験農業の提供</p>

② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>インキュベーション支援の一連の取組やプロモーションなど、事業は一部で目標を大きく上回る成果を挙げるなどおおむね順調に実施されている。</p> <p>他方で、実施主体が行うこれらの取組の継続的な実施だけでなく、沖縄県においてソーシャルビジネスの創生の好循環が生み出されることが中長期アウトカムとして掲げた「沖縄県がソーシャルビジネスアイランドと呼ぶにふさわしい環境になる」においては求められること、またアウトカムはチャレンジングな目標であり外部要因も含めた不確実性も高いことから左記の評価を行った。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
①特定された課題の妥当性	社会課題解決のためのソーシャルビジネス支援の必要性について、事前評価以降、事業を取り巻く環境の変化はないか。	外部環境の変化により、ソーシャルビジネス支援の必要性についてはむしろ増加している。	本事業の運営面については、新型コロナウイルスの流行に伴う社会情勢の変化（イベント等のオンライン化や、大規模イベントの運営の困難さ）等の影響が生じているものの、ハイブリット開催やWeb配信等を柔軟に活用した運営がなされており、計画を変更する状況にはない。
②特定された事業対象の妥当性	ソーシャルビジネス支援対象として「沖縄県で社会課題の解決に意欲を持つ者、または既に社会課題解決に向けた活動に取り組んでいる者」が適当かどうかについて、事前評価以降、事業を取り巻く環境の変化はないか。	ソーシャルビジネスの支援対象は、当初の計画通りで問題ない。	沖縄県内にソーシャルビジネスを広く浸透させていくためには、まずは「沖縄県で社会課題の解決に意欲を持つ者、または既に社会課題解決に向けた活動に取り組んでいる者」が中心となり、ソーシャルビジネスに取り組む社会起業家のロールモデルをつくることが重要であると考えます。 今後は、沖縄県内でソーシャルビジネスの認知度を高めていくなから、新たに「社会課題の解決に意欲を持つ者」の人数を増やしていくための取り組みも必要になると考える。
③事業設計の妥当性	社会課題解決のためのソーシャルビジネス支援のロードマップの妥当性について、事前評価以降、事業を取り巻く環境の変化はないか。	ソーシャルビジネス支援のロードマップは妥当である。	おおむね順調に進捗している。 短期的視点では、①で述べたように本事業の運営面に新型コロナウイルスの影響を多少受けたものの、中長期的視点でのロードマップには変更を加える必要はないと考える。

<p>⑤実施状況の適切性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インプットは計画通りか ・活動は計画通りに実施されているか。 ・アウトプットは計画通り産出されているか。 ・事業目標の達成に見込みはあるか。 	<p>計画通りである。</p>	<p>おおむね順調に推移しており、事業目標を達成する見通しである。</p>
<p>⑦組織基盤の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材は育っているか。 ・「学習する組織」として成長しつつあるか。 ・事業の運営管理体制に問題はないか。 ・組織の体制・事業体制は事業目標に対して適切かつ十分か。 ・組織の財政的な成長につながっているか。 	<p>運営メンバーは、本事業を通じて新しいことにチャレンジしながら成長している。事業の運営管理体制については、今後更なる整備が必要である。</p>	<p>東京と沖縄で運営チームが分かれており、資金管理団体も九州と物理的に離れており対面でのコミュニケーションが難しいが、リモートであっても丁寧で密なコミュニケーションをはかるほか、イベント等のタイミングではリアルでのコミュニケーションを図るなどしてカバーしており、円滑に事業を進行できている。また、将来的に本事業の運営を任せられる人材の育成等も視野に入れて、本事業の運営管理体制を強化していく。</p>
<p>⑧アウトカムの達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通して最終的に達成したい目標や短期・中期的なアウトカムは達成される見通しがあるか。 ・もたらされた変化は事業の実施に起因するものか。 	<p>短期的アウトカムは目標達成の見通しがある。</p>	<p>アウトプットの目標値に対しては順調な進捗であり、円滑に課題解決に向けた活動を行っている。一方、このような活動の結果として、短期・中期的アウトカムの達成につなげていくために、随時活動を振り返りながら事業内容を見直していくとともに、今一度ロジックモデルを整理してアップデートしていく必要がある。</p>

⑨波及効果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通して沖縄県内どのような影響を及ぼしているか。 ・事業を通して沖縄県外どのような影響を及ぼしているか。 	<p>県内の社会人に対してだけでなく、日本全国にソーシャルビジネスの考え方を広めている。</p>	<p>ワークショップ等の直接的な方法でソーシャルビジネスインキュベーション支援等を行っている沖縄県内の社会人や大学生だけでなく、県内外の中高生を含む全国の方に BS 放送や SNS 等も含めた多角的なツールによりソーシャルビジネスの考え方を広めることで、沖縄県内でソーシャルビジネスの認知度を高めている。</p>
-------	--	--	--

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

ソーシャルビジネスに関するオフライン、オンラインによるワークショップ、イベント等などを通じてソーシャルビジネスのインキュベーション支援先の具体的な行動変容を促すこと、沖縄におけるソーシャルビジネスインキュベーションの認知度向上につなげることができていると思料。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

想定していなかった成果はない。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>上述した考察のとおり困難性が高い事業であり課題はあるが、おおむね適切に事業進捗がなされている。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

初年度から2年目中盤にかけてソーシャルビジネスの認知拡大に注力してきたところ、今後はこれらに加えて1期生の伴走支援や今後のアカデミー等の受講生へのフォロー、事業支援についてもより一層の取組を進めていきたい。

ソーシャルビジネスの認知や事業性の拡大において、連携先のうむさんラボのネットワークを生かすなど弊社以外の連携を深めながら活動を深めていきたい。

また、本レビューを踏まえた有識者からのコメントとして

①アウトカムのメジャーメントについて

検討を進めてはどうかのご示唆を頂いた。具体的には「ソーシャルビジネスアイランド」と呼ぶにふさわしいかどうかの代替指標（認知度、露出状況など）などが候補になりうるのではないか、というコメントであり、最終評価に向けて検討を進めてまいりたい。

②ターゲティングしたPR

他のビジネスコンテスト等、親和性が高いターゲットを設定して効果的なプロモーションを行うことも重要とのコメントを頂いた。

③ビジネスの定義

新規ビジネスについては、法人化などの狭義の定義ではなく、VCの専門家等の意見を踏まえつつ一定のマネタイズが見込める等の案件を含むなどしてある程度客観性を担保しつつ可能性のある案件を有効にカウントできるように検討してはどうかとのコメントを頂いており、検討を進めてまいりたい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

<第1期振り返りレポート>

<https://drive.google.com/drive/folders/1CXmMuzNvLAXpJ7RJosItjndkqZN1eV3d?usp=sharing>

<島ラブキャラバン - 2年目ワークショップ>

<https://docs.google.com/forms/d/1DSPkjpAODiujcypgf7Ay46y71B6YpjEMPJUTecn8FpM/edit#responses>